NIE実践報告

1．タイトル：新聞記事から広げて調べ・考えよう

2．学校名

浜松学芸中学校

3．実践者名（代表者名）

柴田　剛（内藤純一）

4．学年

第２学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　46人

6．単元（本時の学習課題）名

江戸時代の庶民生活・文化について調べてみよう

7．目標（狙い）

江戸庶民の生活・社会・文化などを概観する。
新聞記事を通じて，江戸時代の人々の姿を立体的かつ身近に感じられるような発表につなげる。

8．評価の視点

表面的な知識にとどまらず，江戸庶民の姿を立体的かつ身近に感じられるようなまとめ・発表ができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「天下泰平の世の中」（教科書）３時間
「かわる社会と諸対策」（同上）４時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記事から江戸庶民に関係するものを探し，興味をもった記事を選ぶ。（各自）
　※見つけた記事はすべて，新聞名・日付・見出し・内容などを表に書き出す。
②類似分野ごとにグループを作成し，どのような方向性でまとめるかを考える。（１時間）
③新聞記事に関連する分野や内容を広げて調査し，グループごとにＡ３用紙にまとめる。（４時間）
④発表（１時間）
⑤まとめ（１時間）

（留意点）
・ひとくちに「江戸時代の記事」と言っても，数多く見つけ出せる生徒もあれば，全く見つけられない生徒もいる。見つけられない生徒に対しては，うまく広げられるようにともに考え，場合によっては助言をする。
・まとめの際には，教科書的な内容を盛り込みつつ，こぼれ話や裏話で面白いものを組み入れるようにする。
・プリントのまとめ方は自由であるが，写真や図，グラフなどを入れて視覚的にうったえるものとする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・自らの興味にそったテーマを選ぶことができたので，興味をもって調べることができた。
・新聞には現在だけでなく歴史に関する記事が多いことを知って驚いた。
・調べ学習は自分たちで考えて活動できるので，楽しみながらまとめることができた。

12．成果と課題

新聞記事には歴史ものが意外に多く，江戸時代を身近に感じることができた。歴史に関する記事でも，新しい発見だけでなく，現在に伝わる習慣や風習に関するものもあり，様々な角度から歴史を捉えることができた。中には，授業者でも知らない記事や内容を調べているものもあり，新聞を使ったり，調べたりことが視野を広げる良い機会であることを再認識した。単元や授業者の扱い方次第では，新聞を有効に利用できる可能性を感じることができた。今後，どのような授業ができるのか模索していきたい。